

「チンパンジーの子育てについて、何か書いてください」と園長先生に言われて、さあ、困りました。チンパンジーや動物の子育ては書けますよ。なにせ 20 年近く飼育係をしています（年がばれる！）。めぐみ保育園の父兄のみなさんに読まれると言うことは、私自身の子育てと比較されそう！ああ困った。でも、動物たちのことを少しでも多くの方に伝えたい！良いチャンスをいただいたと思って、書いてみたいと思います。この際、自分の子育ては棚上げにさせていただきます。

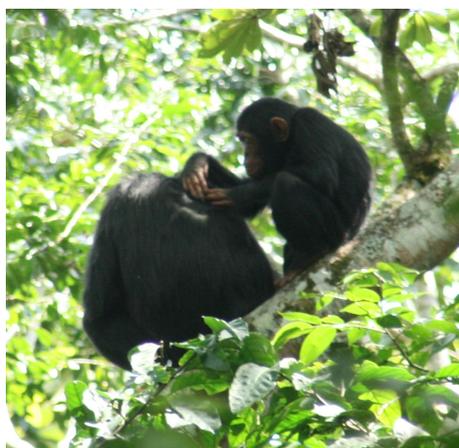
さて質問です。チンパンジーはヒトとニホンザルとでは、どちらに近い動物でしょうか？ わんぱくに来る多くのお客さんたちは、チンパンジーを見て「お猿さん」と言います。多くの方は、チンパンジーはサル仲間だと思っているのでしょうか。ところが DNA で見ると、ヒトとチンパンジーの違いは 1.2%、ヒトとニホンザルの違いは 8~9%といわれています。生物学的に見ると、チンパンジーはヒトに近いヒトの仲間といえます。

ヒトに一番近い動物であるチンパンジーは、240 日の妊娠期間を経て 2000g ほどの子供を出産します。母親は出産後すぐに子供を抱きあげ、24 時間子供を抱きつづけ、それは生後 4 ヶ月頃までつづきます。エサを採るのも移動するのも眠るのも一緒です。チンパンジーの子供は手の力が強く、母親にしがみつくことができます。母親は少し手を添えてあげるだけですむので、こんなことができるのでしょうか。生後 4 ヶ月になると母親から少し離れて周りで遊びだします。野生のチンパンジーでは一人遊びからはじめ、そのうち他の子供たちと遊びます。だんだんと社会が広がり、群れの他のメンバーとの関わりが増えていきます。チンパンジーの赤ん坊のお尻には、白い毛が生えています。これは「尻毛」といって 4 歳頃まであり、この毛があるうちはルール違反をしても許されます。大人のエサを横取りしたり、叩いたりしても大目にみてもらえます。尻毛が無くなる頃までには社会のルールを覚えなくてははいけません。順位の高いチンパンジーには挨拶をする、他のチンパンジーのエサを横取りしない、などです。ルール違反をすると、威嚇されたり噛まれたりします。ところで、チンパンジーの父親は何をしているのでしょうか？チンパンジーは特定のパートナーを持たない乱婚性の動物で、父親は群れのメンバーの誰かと言うことになります。父親は分かりませんが、雄たちは群れを守っているのです。結果的に子育てを安心してできる環境を作っていることになります。間接的に子育てしているのです。チンパンジーは大人になるのに 10 年ほどかかります。そのあいだ、群れの中で生きていくすべを覚えます。母親と群れ全体で子育てしていると言えるでしょう。

一方、動物園で生まれるチンパンジーの 30%ほどが、人工保育になってしまいます。母親が育児を放棄して人の手で育てるのです。なぜ、こんなことになってしまうのでしょうか？「動物たちは、どんなときも愛情いっぱい子育てをするもの」と思いがちですが、チンパンジーの子育てにも学習が必要です。群れの他のメンバーが子育てをしたところを見たり、子供をさわったりする経験が必要なのです。野生では 20 頭から 100 頭ほどの大きな群れで生活しますが、動物園では数頭ほどの家族になってしまいます。増えすぎても困るの

で繁殖制限をすることもあります。動物園のチンパンジーは子育ての学習ができないことが多いのです。その結果、育児放棄することが起こります。また、環境も大切です。群れが安定して安心できる環境がないと、子育てすることはできません。このことは、人間の子育てにも言えるようにおもいます。少子化で子供が少なくなり子育てを学習するチャンスが減りました。核家族が多くなり、社会で子育てをするという意識も希薄です。近頃、ニュースで流れる悲しい出来事は、そういったことの影響も有るように感じます。

そこで私は自分の子育てでは「無理をしない！」をモットーにすることにしています。ヒトの子育ての学習はできませんでしたが、動物たちを育てることができました。我が家も核家族で身内のサポートは少ないですが、育休中は子育て支援センターのお世話になり、今はめぐみ保育園にお世話になっています。これからも周りの人に感謝しながら社会と積極的に関わり、子育てしていきたいと思います。



野生チンパンジーの親子

左は母親から子供に毛づくろい。しばらくすると交代して右は子供から母親に毛づくろい。



白い尻毛

母親が子供をくすぐって、子供は大笑いしていました。(チンパンジーは笑います)